



# 日吉の丘

2006年11月15日・第7号

函館ラ・サール高校同窓会  
函館市日吉町1丁目12-1 TEL0138-52-0365  
<http://www.h-lasalle.com/>



## 同窓会東北支部設立とラ・サール会の将来

函館ラ・サール高校同窓会会長  
齊藤 裕志（5期）



去る10月6日、仙台市に於いて東北支部設立総会が開催され、本同窓会としては4番目となる支部が発足いたしました。もともと「仙台ラ・サール会」という名前でも10年以上前から宮城県在住のOBを中心とした組織があり、ラ・サールホーム（仙台市内）への寄付などを続けてきたとのことです。この度、ラ・サールホームが所在する仙台の地に新支部が設立されたことはまことに喜ばしく、馬場亨（3期）会長をはじめ設立にご尽力された皆様に心からお礼申し上げますとともに、東北支部のますますのご発展を祈念するものです。

さて、過日、日本デレゲーション管区長・ラ・サール学園理事長のホルヘ先生からお手紙を頂戴いたしました。また同時期に来函されたホルヘ先生に直接お会いする機会があり、日本のラ・サール会の活動、さらには同会の将来の展望についてお話をうかがいました。この席にはフェルミン校長、ラベル先生（前校長）も同席されました。お話の主旨は

- ①世界的にみてブラザーの人数が減少していく傾向が妨げようのない事実であること。
- ②日本在住のブラザーは現在13名で、その平均年齢は64歳と高齢化が進んでいること。

このことから、「将来、ブラザーの管理職がいなくなったときのことも考えてブラザーの仕事を代わって務められるラ・サリアンを養成し、従来ブラザーのみが対処してきた諸問題を、それらラ・サリアンにも担っていただきたい」とのことでした。

同窓会としても、こうしたラ・サール会の機構改革についても深い関心を寄せつつ、学園の発展に従来以上の熱意をもって協力していきたい、との思いを強くしました。振り返れば、日本人が一様に貧しく生活苦に喘いでいた戦後の時期から、現在に至るまで一貫してラ・サール精神の名の下に日本の子供たちに対して多くの愛情を注ぎ続けてくれたブラザーに対して、われわれ卒業生がこれから何を為し得るのか、何ができるのか、皆さんとともに考えるときがきていると思います。

今は亡き、ブラザー・オーラス校長先生の卒業式でのスピーチが鮮やかに思い起こされます。

「あなたたちは今日、本校を卒業し、そして今後は各人いろいろな人生を歩んでいくでしょう。その過程でどんなに不幸なことに遭遇しても、あなたたちよりも、もっと不幸なひとたちが世界中にいる、ということをお忘れなでほしい」

フェルミン校長メッセージ

## アナログ型の時代

函館ラ・サール高校校長  
同窓会名誉会長  
ブラザー フェルミン・マルチネス



「日吉の丘より望む、宇賀の浦の波ひかり・・・」この言葉を思い出すと、本校のことが卒業生の皆さんの心と頭の中に浮かんでくることでしょうか。在学時代に何度も歌った校歌の歌い出しのところですから、当然のことだと思います。校歌は「It is a long way・・・」より歌いにくいかも知れませんが、歌詞には意味深い教えがあります。とにかく、校歌は函館ラ・サールの「Trademark」、であると思います。さて、その本校に、今年の4月、皆さんの後輩として47期生が入学しました。同時に、12歳のとても元気な中学8期生がラ・サールボーイズになりました。入学式から半年が経ちましたので、彼らは自分たちのことをもはや新入生であるとは考えていないでしょう。皆さんの学生の時代と同じように後輩たちはラ・サリアンとして、すくすくと成長しています。

今年も、同窓会の会報「日吉の丘」において、卒業生の皆様へのご挨拶の機会を与えていただきました。今回、「アナログ型の時代」という題名を掲げましたが、このことについて皆さんと一緒に考えたいと思います。アナログという言葉は聞くとき昔話だろうと考えられるのではないのでしょうか。確かに現代社会のなかで、その言葉はもはや、博物館行きとなっているかのようです。いまはデジタル型の時代であり、特に世界の中でも日本社会がその動きの先頭となっています。そして、どの工場でも新しい製品を造るなら間違いなくデジタルテクノロジーを利用すべきといわれます。私たちの日常の中でも、デジタル製品があればあるほどもっと便利な生活ができるものと考えられています。私も買い物する際には、どうしても、日本製のものを優先することになります。理由はほとんどの製品がデジタル型であるからです。

しかし、このようにデジタル時代になっても、人々はデジタル化によって生活のすべてが満足できるものになるわけではないことに気が始めているのではないのでしょうか。スティーブン・コヴィー氏の著作「7つの習慣—最優先事項」(注)で書かれているように、現代社会において

- 「もっと時間を有効に使いたい」
- 「仕事と私生活のバランスをもっと良くしたい」
- 「ストレスを感じることなく毎日を過ごしたい」
- 「職場や家庭において信頼関係を築きたい」
- 「人生の目的や目標を達成したい」

ということを希む人は多いと思われる。皆さんはプロフェッショナルな世界の中で活躍する方が多いと思いますが、やはり、このような希みを抱くことがあるのかと思います。そして、ひょっとしたら「可能性があれば高校生の時代に戻りたい」という気持ちになることもあるのではないのでしょうか。 (次ページへ続く)

「アナログ型」な環境でもう一度過ごしたい、と思っても、皆さんが、ティーンエージャー時代に立ち返ることはもはや不可能です。しかし時代を超えて、本校は、皆さんが人間らしさを肌で感じられる教育環境の維持に努めています。当時の「ピンク校舎」の木造教室は古臭いながらも、その中で友達同士で「生のコミュニケーション」をとった機会が多かったと思われます。昔も今も本校は高いレベルの人間教育を目指している学校です。他校と比較すればするほど本校は家庭的風土を大切にしている学校であるということを理解していただけたと思います。他の学校においても、生徒同士が同じように相互に影響を及ぼしあうことが当たり前なことだと一般の方々には考えられるでしょう。しかしながら、卒業生の皆さんは、本校で大切にしているファミリースピリット、そしてそれに基づく生活を経験することによって、卒業後我々が校ならではの絆の強いラ・サールファミリーの一員となっていることに気づいていることでしょう。

強く個性的なひとりひとりの先生方が皆さんに豊かな影響を与えてくださったことでしょう。そして同級生からも様々な形で刺激を受け、皆さんの人生に新しいパワーをもたらしたことと思います。

本校は開校してから間もなく寮を創設しました。それにより生徒の構成は、鹿児島島の姉妹校と同じように自宅生、寮生、下宿生となりました。1960年代から地元の生徒だけではなく道内各地から生徒が集まるようになりました。さらに中学を開校してから生徒の出身地域はさらに拡がり、全国規模の学校となっています。寮生たちは昔から今に至るまで集団生活をしながら本当の兄弟のような絆で結び合っアナログ型の環境を作っています。寮生たちはクラスメイトや部員そして一般の生徒にも自分達が経験したアナログ型のコミュニケーション、ナマの人間関係の豊かさを運んでくれます。"We boys from Hakodate..." というメッセージは事実であると思いませんか。

「男の心」を育成するためにはアナログ型の教育環境が必要です。函館ラ・サール学園においては、このようなアナログ型のキャンパスの雰囲気の中で皆さんの後輩たちを心豊かに育てていきたいと考えています。卒業生の皆さん、今後とも母校に応援をよろしく願っています。

注) 7つの習慣：キングベアー出版  
スティーブン・R・コヴィ他著 宮崎伸活訳 2000年8月刊

### 重要なお知らせ

#### ●来年の同窓会総会期日変更 (2006年9月26日役員会で決定)

従来の「8月の第2土曜」開催から「8/20～26の土曜日開催」に変更

**来年の総会は8月25日(土)となります。**

変更理由：より多くの同窓生に参加してもらうためには、お盆の時期は避けた方がよいのではないか(他地域からの参加の場合お盆期間中はチケットが高い、墓参り、家族旅行等で函館を離れているケースが多い等)

#### ●同窓会奨学金を新制度に (2006年8月12日総会で承認)

学校の新年度スタートより新制度(月額2万を各学年2名・経済的事由で選考)を実施。

本来はラ・サールに進学したかったが経済的事由で公立学校を選択せざるを得ないという合格者を支援、もしくは、進学後家庭の事情が変わって経済的に困窮している生徒を支援することに。

1. 対象人数：6名(学年2名)
2. 金額：144万円(2万円/月・人 従来は1万円/月・人)
3. 選考基準：経済的事由(学業成績・素行も考慮に、従来は学業成績優秀者)
4. 選考方法：申請者に対して学校で審査→同窓会に推薦

### 同窓会総会報告

2006年8月12日(土)開催

15時：関東支部長秋好さん・林役員、西日本支部長藪越さん、(札幌支部長の宮永さんは講演会から)ゲストに鹿ラ・サール東京同窓会黒木会長を交えての役員会。50周年寄付、同窓会奨学金、東北支部の件など(議事録は後報)を審議しました。

17時：前回から定例となった講演会(4期 東和電機社長浜出さん)は80席がほぼ満員の盛況で、同社が世界的な競争力をもつ「イカ釣りロボット」のお話。スライドも交えた氏の軽妙なお話に一同感服。(講演抄録3P)

18時：同窓会総会。会長挨拶、井上副校長(フェルミン校長はメキシコに研修帰国中)挨拶の後、報告・議事。黒木氏(鹿ラ・サール)からの「ラサール育英資金」呼びかけ、「函館ラ・サール学園50周年記念事業の資金協力」開始宣言などを採択。(5P参照)

19時：懇親会。各期ごとの個別案内の呼びかけなどの事前活動が実って史上最多、131人(昨年80人)の参加という大盛会。秋好関東支部長の乾杯音頭に始まり、宮崎先生への退職記念品贈呈、先生OBの紹介、日本テレビ放映の「男子校の寮生活」ビデオ放映、藪越西日本支部長の3-3-7拍子で締め、そして最後に宮崎先生の指揮で校歌・学生歌で大団円。

20時30分：多くの出会いと感動に満たされた総会も終了。皆さん上気した顔で各期ごとにグループとなって大門の夜の巷に消えていきました。

### 平成18年度事業報告

平成17年	
8月13日	同窓会総会
9月10日	札幌支部総会 佐藤副会長 出席
9月16日	第1回同窓会役員会
11月1日	会報第6号発刊
11月16日	奨学生選考会
12月3日	第2回同窓会役員会

平成18年	
1月31日	同窓会入会式
2月1日	高校卒業式 齊藤会長 出席
3月3日	第3回同窓会役員会
3月13日	ハイチへの寄付(50万円) 齊藤会長 出席
3月13日	仙台ラ・サールホームへの寄付(50万円)

4月2日	入学式 齊藤会長 出席
4月7日	第4回同窓会役員会
4月22日	東京支部総会 齊藤会長・菅野顧問 星野事務局長出席
6月9日	第5回同窓会役員会
7月8日	拡大役員会(総会へ向けての準備会)
7月22・23日	学園祭バザー出店
7月25日	第6回同窓会役員会
8月12日	第7回同窓会役員会 同窓会総会



先代の創業社長、父である浜出慈仁が1963年古巣の函館どつくから、電気設備関連の下請けだけを行う会社として設立したのが東和電機製作所だった。何とか軌道に乗り始めた頃に、奥尻や函館同様イカの産地として知られる松前町の親戚から「手巻きの丈夫なイカ釣り機を作ってくれないか」と頼まれた。無類の釣り好きでもあった父は即座に引き受け、イカ釣り機の開発に着手したのが始まりだった。その頃は伝統的な手釣りに代わり、手でドラムを回して釣り糸を上下させるタイプの機械が広く出回り始めていた。さらに63年(昭和38年)型の「サイパー式」と呼ばれる国産初の自動イカ釣り機が登場していたが、こちらは構造が複雑で糸や針が絡まるなどのトラブルや故障が多く、漁業者からの評判は決して良くはなかった。何度も何度も改良を重ね、シャフト(回転軸)にらせん状の溝を付ける事により、機械本体の両脇にあるドラムを回転させながら左右にも振って動く様にした。これにより糸をドラムに均等かつ安定的に巻くことが出来る様になり、イカ釣り針が絡むことがなくなりお客様から大変喜ばれた。これを更に改良し、70年(昭和45年)には手巻きの機械にモーターを取り付けて、全自動イカ釣り機を製作することになった。試行錯誤を繰り返し「はまで式自動イカ釣り機」は完成し製品化されたが、故障の連続で大変な時期だった。その頃の父は故障だと連絡がはいると、どこへでも修理に行き、旅館に泊まるお金もなく徹夜で作業をし、積丹からの帰り道、車ごと転落し木に引っかかり、九死に一生を得たということもあったと聞いている。弱点を克服した電動式の一号機は、71年(昭和46年)の販売開始直後から、全国の漁業者の間で評判となり、年間台数72年一月期は5670台、4年後は1万台近くを売り上げた。

その当時はイカ釣り機メーカーも40社近くあり、大企業ではナショナル、ウシオ電機、油研工業などが名を連ねていたものの、次々と競争を諦めやめていき、現在は2社となっている。しかし、順調に行っていたと思っていたのも長くは続かず、業界でNo.1になったことに驕り、納めた機械のアフターサポートにもなかなか足を運ばず、言い訳ばかりで、とうとうお客様離れが始まり、79年(昭和54年)頃にはNo.2になってしまった。悪いことは重なるもので、経営状態も悪化の一途をたどっていたのだ。過剰な設備投資などによって不良債務が6億円ちかくにも達していた。「何か新しいものを。」と発奮し、開発責任者である私が中心になり、マイコンを使って集中制御が出来る新製品の開発に取り組んだ。

毎日毎日必死に勉強し、ついにコンピューター式イカ釣りロボット1号機「MY-1」が完成した。奇しくも、先代が亡くなる直前の84年(昭和59年)5月のことだった。父が初出荷を見届けて亡くなったのが、せめてもの救いであった。

コンピューターのイカ釣り機械は今までのイカ釣り機械より30%高額にはなったが、1、イカが良く釣れる。2、イカ釣り針などの部品の消耗が少ない。3、乗組員を30%カットでき、労務費の削減にもつながる。などの理由から爆発的に売れ、このコンピューター式イカ釣りロボットの発売で、当社は復活した。シェアトップの座も5年振りに奪還でき、現在もまだ続いている。イカ釣り機械は現在、東南アジア、台湾、韓国、中国、地球の裏側のアルゼンチン、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどに出荷されている。しかし、楽観はできない。シェアはトップを疾走しているものの、イカロボット自体の売れ行きは以前に比べれば、かなりペースが落ちている。イカロボット依存からの脱

却が今、東和電機が抱える最大のテーマになっていると言える。

改めて、うちの原点である海に根差した、海を大切に作る様な製品を手掛けたいと思うようになり、新しい分野にも挑戦を始めた。それが、イカとサンマの集魚灯にLEDを使用するという試みだ。サンマ用のLEDは去年から試験作業を行い、本年は試験成績も良好で、来年からは販売出来そうな状況まで来ている。

イカのLEDは、当社は実験船を所有しているが、本年度新造船を建造し、その船(はまで丸、19.9A)にLEDを搭載している。

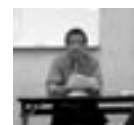
サンマ船は現状は白熱電球(フィラメント)を使用しているが、LEDに変更すると1/10程度の電力消費で済み、大型サンマ船では年間1000万圓程度の経費節約が見込まれている。

イカ漁船の場合は1/3の電力消費が目標となっている。一日も早く実用化させ、お客様の期待に応えようと全員一致して頑張っている。

### ある観光ホテルの再建

湯の川観光ホテルに見るCSとES(注)

講演再録 - 東京同窓会三二講演会から(2006年2月17日)



佐藤 紘司 (1期)

永年ホテル事業に携わってきた経験から、我々に馴染みの深い湯の川温泉での実例を語って頂いた。

湯の川観光ホテルは、昨年6月、昭和30年代の街並みを再現し函館地区の有名ラーメン店5店を集めたフードテーマパーク「らーめんブリック」をオープンして話題になりました。今では湯の川温泉全体の名物です。

湯の川温泉は1650年代に松前藩主一族の湯治場として開かれ、地元資本による「湯の川観光ホテル」開業は昭和50年代のことです。その後、経営不振に陥り、十数年前にナムコが買収し、プリンスホテルでの実績で知られる刈田真司社長による再建が始まりました。この十数年といえば、温泉組合加盟のホテル旅館数が37軒から28軒に減少するなど、リストラと市場縮小の荒波の時代だったのです。

再建の秘密は何だったのでしょうか。十数年前といえば客の90%は旅行エージェンツ送客の団体でした。その後、バブル崩壊により団体客が激減し、地方の観光ホテルの倒産が相次いでいました。こうした中、刈田社長は個人客を志向した体質への転換にいち早く取り組みましたが、最も重視したのは社員のインセンティブ向上です。「要するにCSとESは表裏一体だということです。「一流になりたいですか。なりたかったら私についてきて下さい」と言い、具体的にスタッフを指導していきます。①清掃と掃除は違う(清掃は心をこめて磨き上げること、掃除は目に見えるゴミを除くだけ)②聞くとは違う(「聞く」は耳に十分心が入っていること)③「できません」は不要の言葉(「承知しました」が知恵を生む)など。社員食堂では和洋中のコックが腕をふるい、従業員がお客様と同質のものを食べ、コックも研究するようになります。若手スタッフの積極的な登用も進めました。いわば最高の舞台を用意し、スタッフはアクターやアクトレスとして、お客様に喜んで頂ける最高のパフォーマンスを見せる、ということです。

こうした施策が奏功し経営が軌道に乗ってくると、団体から個人へ、女性客へといった客層の転換に対応して施設への投資を進めました。エステサロン露天風呂付客室、展望貸切露天風呂、少人数向けの食事処などです。料理もイカ・カニ一辺倒を改め、じゃが芋、とうきび、トマトなど地元の質の高い野菜を使ってヘルシー感を高めたり、和食に洋食の要素を取り入れるなど独自性も追求しています。母校訪問の機会などに泊まってみてはいかがでしょう。

注：CS Customer Satisfaction 顧客満足度  
ES Employee Satisfaction 従業員満足度

— 人生の節目にあたって—  
すべてに感謝!



宮崎 敏

今年(2006)はモーツァルトイヤーと言われる年である。1756年1月27日にザルツブルグで生まれたモーツァルトの生誕250年という節目を迎えたからである。今年は各地でさまざまなモーツァルトが演奏されるのであろうと期待している。私もこの二月に高校の音楽教員の研究会で、モーツァルトの合唱曲を3曲、弦楽オーケストラと遺愛女子高校のパイプオルガンの競演を得て指揮させていただいていたが、先生方のすばらしいコーラスで大変盛り上がった。これは私の高音研での最後の指揮でもありました。

昨年末、モーツァルト全集を手に入れたので毎日のように聴いている。が、やはり音楽は生で聴くのが一番だし、できれば自分で演奏してみたいものです。私は60数年生きてきて、その両方を本当にたくさん経験させていただいた幸せな人間だと、すべての関係した方々に心から感謝したいと思う。

音楽は面白いもので、作曲する人がいて、それを演奏する人がいて、その上で聴いてくれる人がいて、初めて音楽が存在するのであるから…。よくわからないまま、がむしゃらに勉強していた若い頃。それから見たら、歳を重ねるごとに、音楽を共有する仲間にも恵まれ、又すばらしい生徒たちをはじめ、若い人達に支えられ、さまざまな活動を幅広く続けられたことに、心から感謝したいと思う。

今年は私にとってひとつの大きな節目である。しかし、まだ沢山のやりたいこともあるので、ゆっくりとだが、しっかりと前を向いて生きていこうと思っているこの頃である。(ここまでの文はLS通信に書いたものをそのまま使わせてもらいました。ゴメンナサイ!)

ところで、私はラ・サールで32年間、その前深川西高校で8年間、合わせて40年間教員として勤務させていただきました。大きな病気もせず、何とかこれを無事終わらせていただいたことに、心から感謝しているところです。

ラ・サールでは、グリークラブや吹奏楽との関わりで、たくさんの楽しい思い出を作ることが出来ました。32年間という長い間に、すばらしい生徒たちとの交流も本当に心に残るものです。

今年は、はじめて函館の同窓会に出席させていただきました。退職にあたって記念の時計もいただきました。そして、なつかしい方々に会い、いろいろお話もしました。楽しいひと時でした。本当にありがとうございました。

今後は私も出来るだけ同窓会に出席させていただきたいと思っております。その節はどうぞよろしくお願いたします。

日本での私の50年



ブラザー アンドレ・ラベル

1956年9月5日、船で横浜に到着してから、すでに50年の歳月が過ぎました。時の過ぎる早さは信じられないほどです。この50年の間に、私は日本の私たちの四つの施設、東京、鹿児島、仙台、函館で働いてきました。鹿児島と東京にも何年間か滞在しましたが、日本での私の人生で最も長く生活した場所は函館での18年間です。私は学校だけでなく、様々な仕事をしました。短い期間ラ・サールホームで働き、東京の大学生のためのラ・サール大学生寮では9年間働きました。同時にこの期間、何年間か上智大学でフランス語を教えることができました。他のブラザーと同じように何年間か、パートタイムかフルタイムで日本のみならず東南アジアの国々の教会で黙想会指揮のチームで協力してきました。

私の人生の3分の2にもなるこうした歳月は素晴らしい年月でした。特にチャレンジとなったのは私が1993年に函館の校長となった時であり、また学校の未来を強化するために1999年に中学校を開設した時でした。仕事を前に進める際にすべての先生方の信頼に溢れた協力に感謝すると共に、特に学校、寮の管理職の方々に感謝したいと思います。この経験によって多くのものを得ました。校長として函館の11年間に、教職員の方々、PTA 函館本部と10支部、母の会、協力会の素晴らしいそして具体的な信頼に満ちた学校への協力に触れることができました。同時に学校同窓会の協力も忘れることはできません。

日本での日々、一人の人間として、教育者として、ブラザーとして、特に宣教師として、私はとても幸福でした。私は今も幸福を感じていますし、こうしたことにたいへん感謝しています。宣教師として日本の若者と一緒に生活すること、そして彼らと共に完全な自由の中で、人生や彼らの将来と使命について、また人間における見えない世界、死後の世界、また神や人間の歩みにとって光となるイエスの生活とメッセージについて考えることは私にとって大きな喜びであったし、今もそうです。神と私の両親に感謝し、またラ・サール会ブラザーたち、ラ・サールファミリーのメンバーの兄弟愛に対して心からなる感謝を捧げたいと思います。最後に、学校、同窓会が私のために50周年を祝ってくださったことに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

ラベル先生滞日50周年記念講演会  
宇野哲人(6期)

9月28日(土)に開催された、前校長ラベル先生の在日50周年記念講演会は、函館、鹿児島両OB各位、函館ラ・サールPTA 関東支部の皆様のご協力を得て、盛会裡に終えたことをご報告いたします。

当日は、上智大学8号館の410号教室に、100名を超える皆様が集まり、在日50年間の思い出やラ・サリアンに期待することなどをお話いただいた後、カフェテリアではラベル先生を囲むでの和気藹々の懇親会、写真撮影などであっという間の二時間でした。ラベル先生にもとても喜んでいただけたのかなと思います。なお、函館組は函館から齊藤会長など参加されたほか、PTAから22名、学生15名を加え、合計で64名と鹿児島を上回る参加をみたことに感謝いたします。

## 函館ラ・サール学園創立 50 周年 記念事業への協力について

かねてよりご案内申し上げておりましたが、きたる 2010 年、函館ラ・サール学園は創立 50 周年を迎えることとなります。現在学園では 50 周年記念事業の計画を策定中ですが、そのひとつである「体育館」の建替資金（総額・概算 8 億円、2009 年着工、2010 年竣工予定）の一部について、学園側から同窓会に対して協力の要請があり、同窓会役員会・総会でこの資金協力等について協力することが決定いたしました。

現体育館はすでに老朽化が著しく、設備的にも万全とはいえないところから、在校生の諸君からも建て替えへの強い希望が寄せられており、また父母会、協力会等でもすでに新体育館建設に向けての資金協力を推進すべくさまざまな活動に着手していると聞き及んでいます。わたくしたち同窓生も、かつて学んだ学舎への愛着と学恩をあらためて思い起こし、1 万人を超える同窓生すべてに、あらゆる手段で資金協力への呼びかけを進め、本計画の実現に向けての貢献をしたいと存じます。

皆様からの個人としてのご寄付、さらには同期会、クラス会などのあらゆる機会を捉えて、本資金募集への積極的なご協力を切にお願い申し上げます。特に同期会等の懇親会などでの募金や、会費剰余金などは金額の多少を問わずご寄付いただくと嬉しい限りです。

### 1) 名称・目的

#### 函館ラ・サール学園 50 周年記念事業

「新体育館」建設資金協力等（具体的な資金提供の目的については学園側の記念事業の内容が確定次第、役員会で決定します）

### 2) 寄付募集期間

2006 年 12 月 1 日～2009 年 11 月 30 日（3 年間）

### 3) 寄付の方法

個人名、又は団体名（同期会等：その場合も責任者名を記載してください）にて下記口座あてにお振込みください。記載方法は同封の書式をお願いします。

恐縮ですが、振り込み手数料は寄付者のご負担でお願い申し上げます。

なお、領収証等を送付させていただく関係上、お振込み後に同封の寄付申込書を郵送・FAX またメールで同窓会事務局にご送付頂きたいと存じます。

### 4) 寄付のあて先

みちのく銀行 銀行コード 0118

函館支店 店番号：091

普通預金口座 番号 2026043

名義：函館ラ・サール高等学校同窓会 50 周年記念事業（ATM から送金の場合は省略できます）

なお、送金の便宜を図るために別途郵便口座の開設も予定しています。（開設後にあらためてご案内します）

### 5) 寄付金額等

1 口 5,000 円 出来れば 2 口以上でお願いします。

（なお、同期の懇親会等での残預金等の場合には端数金額も含めこの限りではありません）

### 6) 寄付者氏名の公表

ホームページに寄付者（または団体名）を随時公表し、また同期会会報にも掲載する予定です。（匿名、インシヤルなどをご希望の方はその旨寄付申し込み書の所定欄にご記入ください）

### 7) 顕彰

体育館竣工に際して、寄付者の氏名を記録した銅版を設置し、永く感謝の印とする予定です。

## 函館ラ・サール高校同窓会 公式サイトのご案内

<http://www.h-lasalle.com>



2004 年 9 月に開設された同窓会ホームページですが、登録メンバーも 760 名を数え、同期会の案内、写真の掲載や近況報告など、さまざまな利用のされ方をいただいています。

以下、最近のトピックスをご紹介します。

（なお、(\*) の表示のあるものは、登録済みの会員のみが利用できるサービスまたは機能です）

#### ●同期会・同窓会の写真の掲載

現在収録されている写真は全部で 500 枚以上、大半が同窓会総会・支部総会・同期会の記念写真です。他にも校長先生撮影の写真、函館の様子などが多数。人気のトップは「雪のラ・サール学園」。なんと表示回数 1900 です。直接写真データを掲載させることもできます(\*) が、不慣れな方は事務局あてに写真を送付（または Email）していただければ、サイト管理人が掲載しますので気軽にご連絡ください。

#### ●掲示板(\*)

会員のみが自由に意見を掲載できる場所で、すでに約 300 件の書き込みがあります。同期会のお知らせ、近況報告の他に、この欄で「卒業以来の旧友を発見」というケースもあります。人材募集や「専門家に聞きたい」という書き込みもあり、今後もっともっと多彩な利用が可能ではないでしょうか。

#### ●登録ユーザー一覧(\*)

登録会員の情報を検索できます。ここで同期の登録会員の電子メールアドレスを探して直接メールのやりとりを始めた方も多数あるようです。会員名の末尾に卒業期を (XX) (半角) で登録してありますので、後方一致検索で同期生のリストアップが簡単にできるのも便利です。

#### ●リンク集

現在 100 件以上のリンク先が収録されています。うち半数は同窓生の関連サイトで、飲食店や医院・コンサルタントなど自営業の方のサイトが数多く収録されています。ビジネスでの利用やお役立ち情報の探索に利用できそうです。

#### ●ミニ・カレンダー

閲覧は誰でも可能ですから、同期会などの広報にはうってつけです。

#### ●ボランティア募集

学校関係の情報、同窓会・支部・同期会関連などの情報（テキスト・写真）を自力でアップする作業の出来る方（一定程度コンピューターの Skill のある人）を数名程度委嘱して、それらの方々（上位権限を持つ）モデレータに任命し、情報の収集、更新等のお手伝いをお願いしたいと思います。本サイトで使用している XOOPS というコミュニティウェアに経験または興味のある方をお待ちします。

連絡先/同窓会ウェブサイト管理人（星野）：[wm@h-lasalle.com](mailto:wm@h-lasalle.com)

#### ●会員登録の方法

同窓会の会員の皆さんは、「一般ページ」TOP の左上のメイン・メニュー「メンバー登録申請」から

■氏名（本名・漢字）

■ユーザー名（このサイト上で使う名前 ペンネーム可 半角英数 6 字）

■メールアドレス（本サイトのメンバー登録には自分のメールアドレスを持っている必要があります）

■パスワード（自分で設定します）

■卒業年次（XX 期）あるいは（旧・現職員）

などを登録していただくと、サイト管理者から登録確認のメールが届き、登録ユーザーになることができます。（サイト登録は管理者がマニュアルで行っているため若干の日数を要することがあります）

登録ユーザーが上記ユーザー名、パスワードを使ってログインをすると、「登録ユーザー」専用のページ（「登録ユーザー・ページ」）に入ることができます。この「登録ユーザー・ページ」では、

○一般掲示板（登録メンバー同士の情報交換ページ）

○登録ユーザー一覧（登録ユーザーの検索）

などのページを閲覧できる他、インフォメーションを除くほぼすべてのメニューに対して、情報の発信、投稿ができます。



▲東京同窓会① 4/22 東京 菅原前会長あいさつ



▲東京同窓会②



▲東京同窓会③ 大畑先生の指揮でグリーククラブの合唱



▲近藤副知事（3期）就任を祝う集い 5/27 札幌



▲同窓会総会① 8/12 函館 会長あいさつ



▲同窓会総会② 宮崎先生への記念品贈呈



▲同窓会総会③ 校歌斉唱



▲札幌支部総会① 9/9 札幌 受付風景



▲札幌支部総会②



▲東北支部設立総会① 10/6 仙台



▲東北支部設立総会②



▲ラベル先生滞日 50 周年記念講演会① 10/28 東京上智大学



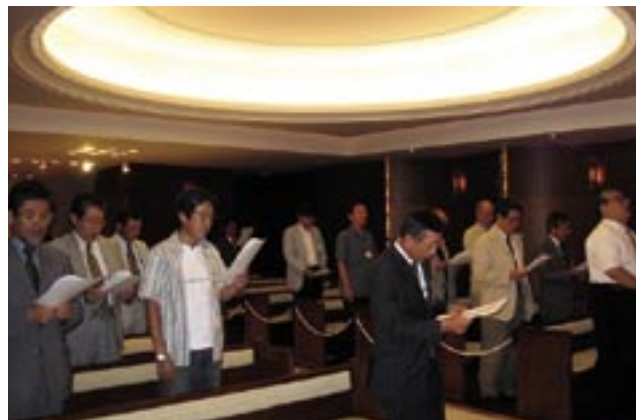
▲ラベル先生滞日 50 周年記念講演会②



▲ラベル先生滞日 50 周年記念講演会③ 記念撮影



▲西日本支部総会① 9/2 京都 集合写真



▲西日本支部総会② 礼拝



## 関東支部より

平成 18 年 4 月 12 日

## 函館ラ・サール高校東京同窓会 会長 秋好 憲一 (3 期)

この度、函館ラ・サール高校東京同窓会の会長を務めることになりました 3 期の秋好憲一です。



まずは、東京同窓会の立ち上げから今日に至るまで、常に我々後輩を叱咤激励し、永年に亘って大変なご苦勞をお掛けしました前会長の 1 期菅原宏之氏並びに旧役員の皆様に、深甚なる謝意を表したいと存じます。

本日の第 6 回総会は、300 名という東京同窓会始まって以来の参加者数となりましたが、これも偏にこの 1 年間同窓会の為に貴重な時間を割いて綿密なる打合せを重ね、本日の企画・立案・運営に携わってこられた担当期の運営委員の皆様並びに事務局を始めとする東京同窓会役員及び他 OB の皆様のご支援の賜物であり、厚く御礼申し述べます。

さらに今回の総会で顕著な事象の一つは、先月母校を卒業されたばかりの 44 期の若き OB 諸君が多数出席されている事です。これは、一昨年来の新会員勧誘運動という地道な取り組みが、特に昨年あたりから実を結びはじめ、函館本部事務局や多くの期幹事の皆様のご支援を頂き、本日を迎えた次第でございます。

同窓会活動の趣旨には種々の目的があることと存じますが、私は OB のための『大きな傘』であると思っております。

個人の性格や価値観に差異は有るとしても、ラ・サリアンというアイデンティティの下に参集した OB による OB の為の場、これが私の指向する同窓会のあり方です。

歴史の浅い我が東京同窓会に於いては、まだまだ多くの課題が山積しております。

卒業名簿の精査、新会員の勧誘、人材の育成、同窓会活動の効果的広報活動、会の財務内容の改善等々今後皆さんと協力しながら一步一步進んでいく事が私の使命と心得ます。

就いては、性格は違っても同じ母体から生まれた鹿児島と函館という兄弟校 OB が、同窓生としての親睦を通して互いに切磋琢磨しつつ、ラ・サリアンとしての自覚と意識の向上が叶えれば望外の喜びであります。

今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

## 函館ラ・サール高校東京同窓会 顧問 (前会長) 菅原 宏之 (1 期)

第 6 回函館ラ・サール高校東京同窓会総会にかくも多くの皆様のご出席を頂き、誠に有難うございます。



今大会より運営委員の皆さんの企画により実行運営するという初めての記念すべき総会となりました。会を始めるにあたり、6 期、16 期、26 期、36 期の運営委員皆様のご苦勞に深く感謝致します。

本日はお客様として、函館ラ・サール学園理事長ホルヘ・ギャルド管区長、井上副校長、恩師大畑先生、東郷先生、十文字先生をお迎えし、さらには、鹿児島ラ・サール東京同窓会黒木会長他役員の方々、母校の齊藤同窓会会長他、函館中部高校白楊ヶ丘同窓会東京支部の金子支

部長他役員の皆様のご出席を賜り同窓生の皆様と共に喜ぶにたえません。

さて、今回のイベントの第一幕は記念講演で、3 期の遠藤八郎氏の「こんな時代だからこそコミュニケーションを大切に」、第二幕は心を癒す 6 期の元岡一英氏と応援メンバーによるジャズセッションとなっておりますので、どうかお楽しみ下さい。

函館ラ・サール高校東京同窓会は 6 回目の大会を迎え、毎月の幹事会も 20 名から 30 名の幹事・役員の方々の出席を得、しっかりした核ができてまいりました。これも同窓生皆様の多大なボランティア精神のお陰と心より感謝申し上げる次第であります。

私も今大会をもちまして会長職を退き、次期会長にバトンタッチすることと致しました。長い間ご支援ありがとうございました。

次期会長は、3 期の秋好憲一氏であります。新たな役員陣容にて、会に新風を吹き込み大いなる発展を期しておりますので、どうか引き続きご支援ご協力の程お願い申し上げます。

皆様の情熱が同窓会を益々発展させていくものと確信いたしております。



## 西日本支部より

平成 18 年 9 月 2 日

## 西日本支部 支部長 薮越 英昭 (4 期)

9 月 2 日 (土) 第 8 回西日本支部同窓会が無事終了しました。今回はフェルミン・マルチネス校長先生が所用のため出席できず代わってアンドレ・ラベル前校長先生にご出席をお願いし快く出席をいただきました。また函館本部からも齊藤会長と星野事務局次長にもご出席を頂戴し、昨年を上回る 31 名の皆様が出席してくれました。ご出席をいただいた多数の同窓生の皆様に対して心よりお礼を申し上げます。



今年は会場を京都に移し京都ホテルで開催しました。京都ホテルは聖ラ・サール 350 年の集いのときに一度利用しており、素晴らしいチャペルを使用しての追悼式でスタート、記念写真と続き、初めての試みとして講演会を開催しました。ブラザー・ラベル前校長先生が日本に来日して 50 年、を記念して「My 50 Years in Japan」と題して講演をしていただきました。1930 年カナダケベック州サンジェロム町での出生から 1956 年に始めて来日し 1988 年函館校での宗教科の担当を 5 年間、その後校長先生として 11 年間在籍し、現在修道院長と宗教をご担当されています。先生のお話から、日本人以上に日本をこよなく愛し続けている姿勢が肌に伝わってきました。久しぶりに大きな感動をもらいました。

続いて総会・懇親会と楽しいひと時を皆で共有できたことは何事にも代えがたい同窓会であったことと確信いたします。鹿児島校との交流も 7 月の鹿児島校大阪支部の同窓会に幹事の 9 期諸戸さんが出席しパイプを太くしてくれました。9 月 30 日には鹿児島県知事の伊藤祐一郎氏 (鹿児島 15 期) が来阪、現大阪支部会長の笛吹様からのお誘いもあり、親睦が図れ貴重なお話を頂戴できたことも嬉しい出来事でした。





**東北支部設立まで**  
平成 18 年 10 月 6 日

伊藤 恒敏 (6 期)

先般、10月6日金曜日、折しも東北・北海道に大雨が降った週末に、仙台エクセル東急ホテルで「函館ラ・サール高校同窓会東北支部設立総会」が、約20数名の同窓生の参加のもと、開催されました。



本年4月22日に東京同窓会が開催された際、仙台から伊藤恒敏(6回生)が、東京在住の当番幹事である6回生の仲間から呼び出しを受け、また3回生の遠藤八郎氏が同窓会で講演を依頼され、講演の中で遠藤氏が仙台の同窓会活動を紹介しました。

懇親会で、函館の同窓会本部から東京同窓会に出席されておられた齊藤同窓会長とお会いし、東北支部を是非作ってほしいと強く要望されました。

8月中旬になって函館ラ・サール高校仙台支部の総会の案内を出すべく、仙台の同窓生各位に連絡を出した際に、折角東京で面識ができた同窓会長、事務局などへも連絡を取り、可能ならば仙台支部への会長などの出席を依頼しました。この時点で、10月6日をぜひ、東北支部設立の総会にして欲しい、とあらためて同窓会本部から強い要請を受け、いささか準備不足な面(仙台支部では準備をきちんとしてからの方が良いのではないかなどの議論があった)はあるものの、本部の要請を受ける形で、名簿を手に入れ、500名以上の東北在住の同窓会員に再度案内を出し、とにかく走りながら考えることとして準備作業に突入したわけです。

仙台支部はこれまで13年の活動の経緯があります。会員名簿もそれなりに準備はできていましたが、東北の他県の分がありません。本部から名簿を送ってもらい、調べると500人以上が東北地方に暮らしていることがわかりました。確かにこれらの方々事前に同意を得て支部を設立するのが望ましい形ではありますが、今回はとにかく支部を立ち上げよう、立ち上げておいてから徐々に呼びかけを徹底していった形を整えよう、ということので発車いたしました。

当日は、ラ・サールホームの石井恭一先生、ロドリゴ・テレビニョ園長にご来臨賜り、ご挨拶をいただき、また函館ラ・サール高校父兄会の山家靖様にもご出席いただきご挨拶をいただきました。さらに函館同窓会本部からは齊藤裕志会長、清水昌明事務局長、星野裕事務局次長にご列席いただき、他地域の同窓会支部の現状などのお話しもいただきました。

仙台支部会長の馬場亨氏(3回生)が暫定という条件で会長を引き受けられ、岩手の藤村朗(10回生)と秋田の大坂真一(10回生)の両氏に副会長をお願いし、事務局は仙台支部の事務局の伊藤がつとめる、という体制で東北支部が承認されました。会員相互の親睦に加え、東北支部の特徴はなんと言っても仙台にあるラ・サールホームを目に見える形で支援したい、ということです。東北支部の会則にもその旨を盛り込みました。

東京支部からはお祝いの電報までいただきました。東京支部には会則を定める際にお手本となる東京支部の会則をお送りいただきました。東京支部の事務局の宇野哲人氏(6回生)にあらためて感謝申し上げます。

今後、同窓会本部をはじめ、各地の支部との交流を図りながら、日本全国に広がる函館ラ・サール高校同窓生の緊密なネットワーク作りに一汗もふた汗もかきたい、と気持ちを引き締めているところです。各位のご支援をお願い申し上げます。



**札幌支部より**  
平成 18 年 9 月 9 日

牧野 孝夫 (13 期)

今年度の札幌支部の同窓会は、例年通り9月の第二土曜日である9月9日(土)に開催されました。会場であるホテルノースシティには、140名を超える同窓生が全道から集まり、母校からラベル前校長、函館同窓会本部から佐藤副会長が参加下さいました。また、現在は札幌聖心女学院教諭の牧尾先生もお忙しい中、参加下さいました。

本年度も、総会終了後、講演会を開催しましたが、今回は17期の宮田昌利氏(サンエス電気通信株式会社代表取締役社長:札幌ビズカフェ代表理事)にお願い致しました。宮田氏は『札幌ビズカフェの今と未来』というテーマで、ビズカフェを設立した経緯や今話題のIT関連のお話をパソコン・プロジェクターを駆使し軽妙な語り口にて解説頂きました。有難うございました。

懇親会では、ラベル前校長と牧尾先生を取り囲んで、昔の話をしたり、母校の近況をお聞きするなどして、大変楽しい時間を過ごすことができました。最後に、学生歌(It's a long way)を斉唱し、今年度の同窓会は終了しました。

来年度は、平成19年9月8日(土)に札幌支部同窓会総会が開催される予定です。学校創立50年も近づいており、より多くの同窓生に周知してご参加頂ければと願って止みません。今後とも函館ラ・サール高校札幌支部同窓会発展のため、皆様のご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

**「箱館戦争始末」**

大誠(だいまこと)さん(1期)が出版した歴史小説「箱館戦争始末-土方歳三の恋」が北海道新聞にとりあげられました。「箱館戦争の経緯から顛末を史実に忠実にわかりやすくまとめる一方で土方など登場人物像を生き生きと書き込んだ」労作との評。(函館市内・大文堂書店などで取扱い)



2006年9月22日北海道新聞(夕刊)にて紹介

## 清水 昌明

函館ラ・サール学園寮頭  
同窓会事務局長



ラ・サール修道会  
日本デレゲーション機関誌  
"Soleil Levant"2006 号夏号掲載

函館ラ・サールに入学する際、その動機の大部分が高い意識集団の中で、大きく掲げる志望大学への進学という点に占められるでしょう。私自身も、30余年前に、地元の公立学校ではなく、親元を離れてまでも、函館ラ・サールを選択した理由は、何と言っても、大学進学に関するアドバンテージがほしかったからです。具体的には、ラ・サールに行けば、優秀な教師がいて、大学受験に効果的な授業が行われているのだろう、また、切磋琢磨できるライバルが、多数いるのだろうという期待感です。

入学後、すぐに、その期待通りの学校であることを実感しました。特に、我々14期生が定員を大きく超える約400名もの入学者数を出した当時、函館ラ・サールが非常に勢いのある時期であったことも、背景として付け加えておきます。その恵まれた背景の中で、私がラ・サールに入学して最も良かったと感じたことは、人間教育を重視している環境の元で学園生活を送ることが出来たことです。

ただ、ラ・サールは、やはり進学校として捉えられており、最近でも学校説明会におきましても、そこに来られる保護者、生徒の関心は、どうしても進学実績に関する話に向いてしまいます。学校や寮で、どのような人間教育が行われているのか、ということについて説明いたしましても、さほど、印象には残らないようです。

しかしながら、函館ラ・サールの特徴は、進学実績はさることながら、学校、寮で実際に生活をしてみて、初めて実感できる人間教育を大切にしている校風にあると思います。特に、私の在学時代には、まだまだ、お若く元気はつらつのオーラス先生、ラクロワ先生、ルイ先生、アルマン先生、そして寮にも、ルミール先生というブラザーの方々がいらっしゃって、そのブラザーが醸し出す雰囲気は我々生徒が浸ることが出来たことに、本当に幸せな時代であったと今、声を大にして言わせていただきます。

思い出話になりますが、私は、在学時代とりわけオーラス先生に、学校はもとより寮においても、大変お世話になり、多くの薫陶を受けることができました。オーラス先生は親身になって生徒の相談に乗ってくれることは勿論ですが、特にユーモアのセンスは抜群で、先生がいらっしゃるだけで、周りの雰囲気が和むという、まさに「ファミリースピリット」を感じさせる方でした。

特に印象に残るシーンは、寮生のスポーツ大会の時のこと……早朝にグラウンドで水をまく音に気付き、寝室のカーテンを開けて外を見ますと、先生がお一人で、乾いたグラウンドに、生徒が少しでも良いコンディションでプレーできるようにとホースを出して水まきしてくれていた姿です。その上、ソフトボール大会では、1年生の我が弱小チームのピッチャーになってくださり、先生のお陰で見事3位となり、終了後皆で食べた賞品のすいかの味は忘れられません。オーラス先生は、鹿児島、函館を問わず、卒業生が集まれば、必ず一番に話題にあげられる伝説のブラザーとして、そして、私の胸には教師の理想像として、強く焼き付いているのです。

話を戻しますが、私は体験を通じて、教育に身を捧げているブラザー達が醸し出す雰囲気そのものが、まさに、ラ・サールが大切にしているところの人間教育であり、それを生徒が、日々、授業、クラブ活動、寮生活等、いろいろな場面で肌で感ずることが出来るところが、ラ・サールの良さであると思います。またそれは、生徒ばかりではなく、協力者である職員にとっても、同じことが言えましょう。ただ、現在の函館ラ・サールには、フェルミン校長と、ラベル先生の2人のブラザーがいらっしゃるだけです。ラ・サールの精神を体現しているブラザーが2名しかいらっしゃらないということは、私の在学時代のように、ブラザーの先生方と触れ合う機会が多かった時代と比べると、ラ・サールの人間教育において、マイナス要因であると言わざるを得ません。

今後、ブラザーが増えることは期待できない状況において、引き続き、ラ・サールの大切にしているところの人間教育、ファミリースピリットに富んだ教育環境づくりを推進していくためには、我々協力者が数少ないブラザーをより効果的にサポートして行かなくてはならないことと、今までブラザーが果たしてきた役割を補うよう心掛けることが大切であると思います。

具体的には、「聖ラ・サール伝」、「丘を下っていった人」等のラ・サールに関する著作を読む等して、ラ・サール精神を学び、様々な教育現場でそれを生かしていくことを考えていかねばならないと思います。また、特に私のように、幸い在学時代にラ・サールの良い雰囲気の中で学ばせていただいた経験のある者は、次の世代に、その良き時代の雰囲気を継承して行かなくてはならないと考えています。我が伝説のオーラス先生は、残念ながら、61歳という、まだまだこれからという若すぎる年齢で、お亡くなりになりましたが、「ブラザー・オーラス、人とことば」を私の座右の著として、生徒指導等の場面で判断に迷った時には、「オーラス先生であればどのように判断されるであろう」と想起して考えるようにしています。

今後も、ラ・サール学園に奉職している協力者として、学園の教育目標を実現すべく、日々、精進して参りたいと思います。

## 編集後記

昨年の発行遅延の理由「新装版の発行のため」は二度は使えません。ついに12月発行まで遅れてしまった責任は一に懸かって編集にあたった星野にあります。実は10-11月に別のイベント（はこだて湯の川オンパク：詳しくは<http://hakodate.onpaku.com>）の立ち上げの事務方に没頭していたために、本誌の編集の着手が大幅に遅れたことに因るものです。清水事務局長、各支部の幹部など早い段階で原稿をお出し頂いた方々にはひたすらお詫びするしかありません。さて、今年函館は空港の改築オープン、五稜郭新タワー落成や駅前ホテル新設ラッシュ、新幹線函館延伸決定など多くのハード系のニュースに混じって、大門横丁、バル街など地域起し系の話題が出てきた年（私がお手伝いしたオンパクもそのひとつ）ではなかったかと思えます。卒業生の皆さんが母校の地、函館を再訪される機会に「函館は変わった」「元気が出てきた」という印象をもていただけるように、函館を変えていくのが函館に居残った私たちの務めかと思う日々です。（事務局次長 星野 裕5期）

## 過去1年の同期会など

この1年、全国各地で同期の集いが開かれました。以下、公式サイトに掲示板・ミニカレンダーに掲載されたものを再録します。(掲載順は新しいものから)  
(氏名の後ろは 期、投稿日 Mはミニカレンダーから)

**第10回「ラ・サール」札幌季節風の会** 佐々木晴夫(7) 2006/11/12  
来る11月17日(金)の夜6時過ぎから、札幌市中央区南7条西4丁目プラザ7-4・浅いビル3階の「温味(ぬくみ)」にて、10回目の「季節風の会」の秋の研修会を行います。当日は、午後に幹事の佐々木が公開授業を行い「教育」についてをテーマにしたり、公開授業についての授業参観者により講評をしてもらったりする予定です。

**24期同窓会(20周年)企画しています。** 表辰悟(24) 2006/10/30  
今回、同窓会HPに登録した24期の表です。現在、札幌在住。先日、札幌支部の同窓会に同期が12名集まりました。24期は今年20周年ということで、同期会を企画しております。今年は無理ですので、来年の7月あたりで考えていますが現在、メーリングリストを作成し、登録者数が55名となっています。24期のみメーリングリストです。24期で登録がまだの方は、メールください。

### 3期同期会(M)

日時 2006年10月21日(土曜日)  
場所 定山溪

**11期同期会** 2006/10/22 田村仁(11期)  
来る11月11日に東京上野で開く11期同期会の幹事をします。関東地区での正式な同期会はこれが初めてになります。現在参加予定者は19名ですが、一人でも多くの方々に参加を呼びかけたく思いまして、ラ・サールのホームページのミニカレンダーに書き込みを依頼しました。

### 9期同期会(M)

日時 2006年09月16日(土曜日)  
場所 愛別ゴルフクラブ&層雲峡グランドホテル  
連絡先 湯本達 (一印旭川卸売市場)

### 1期同期会(M)

日時 2006年08月11日(金曜日)  
場所 竹葉新葉亭(函館・湯の川)  
1期の同期会を湯の川で開催します。30人ほどが既にエントリーしていますが、まだ参加可能です。御連絡ください。  
連絡先 菅野剛造(1期)

**20期生で東京在住の皆様へ!** 杉下隆之(20) 2006/07/07  
突然ですが、20期生の皆さんお久しぶりです。来たる7月22日(土)の夜、東京在住の20期生が赤坂で集うこととなりました。現在15名位の参加予定ですが、連絡の付いていない人が多いと思われるので、参加希望の方、私のメールアドレスまで連絡下さい。

**19期同窓会** 福井守(19) 2006/06/14  
19期生(昭和56-1981卒業)が今年で卒業25年を迎えることから、これを機会に同窓会を函館で開催したいという話が持ち上がっています。樋爪君が同期の所在や連絡先等の確認を進めています。また、同窓会に参加できない場合でも、メールのやりとり等を通して、近況を知り合うきっかけになれば、との考えもあるようです。現在の計画では8月に函館で開催し、卒業時の担任の先生方をはじめ、関係者の皆さんにも声を掛けていきたいと考えています。

### 近藤副知事就任を祝う3期生の集い(M)

日時 2006年05月27日(土曜日)  
場所 札幌かっぱ庵  
連絡先 中川雄三(3期)

**鹿児島同窓会に合流してきました** 大久保道男(16) 2006/04/23  
昨日(4月22日)、毎年恒例となっている鹿児島ラサール学園の中部地区の同窓会が、名古屋栄のマルベリーホテルで開催されました。この催しには毎年、我々函館ラサールの中部地区在住OBもお声がけいただき、参加させていただいております。今回参加したのは、10期 澤雅明氏、17期の浜田鉄也氏、それに私の3名だけでちょっと寂しかったです。中部地区在住の函館ラサールOBのみなさん!ここを見ておられたら是非ご連絡下さい。函館独自の同窓会を開催したいと思っています。

**20期函館在住者送別会開催の御案内** 川口 孝徳(20) 2006/02/20  
20期の川口です。朝日新聞の函館支社に勤務されておりました横山君が転勤されることになり、20期の函館在住者6名で送別会を開催することになりました。(横山、小笠原、金野、棚橋、佐藤、川口)20期で参加できる方がいらっしゃいましたら、御連絡下さいます様、宜しくお願い致します。

日時 3月4日(土) P.M.6:30  
場所 花鳥風月本店 本町

### 29期同窓会(東京開催)(M)

日時 2006年02月18日(土曜日)  
場所 ニューオータニイン東京(J.R山手線大崎駅直結)  
連絡先 平間(東京)・永澤(函館)

### 唐突に12期新年会

佐藤 友康(12) 2006/01/08(Sun)  
1月17日(火曜)午後7時から新年会を開きます。参加者は15日(日)までに、メール等でお知らせください。忘年会を期待されてた方も多いようでしたが、忘年会はサボりました。我慢して参加してください。今年は、雪かきに精を出しましょう。  
日時 1月17日(火) 午後7時~9時  
場所 本町17-2 ハートランド五稜郭

### 7期有志の「校友会」出会いから40周年記念とお別れ会(M)

日時 2006年01月06日(金曜日)  
場所 函館市谷地頭  
連絡先 上磯町・藤田啓実  
我が『校友会』のメンバーも55歳東京から大森や横井も参加して、行方不明の柴田や住吉・大島への思いをこめて、どうにか生きているものたちで集まり、昔を懐かしみ、これから夫々が人生を全うすることを願ひ別れの会とする。(佐々木晴夫)

### 5期総会&新年会

(函館) 星野裕(5) 2005/12/28  
恒例の5期会2006総会及び新年宴会を下記により開きます。  
日時 2006年1月2日 午後6時  
場所 ホテル函館ロイヤル  
飛び入り参加大歓迎で、特別欠席は取りませんが出席可能な方、ML上で意思表示していただければ幸いです。

**函館ラサール同窓会・小樽支部 新年会** 戸田俊裕(14) 2005/12/12  
本年度も残すところ、あと僅かとなりました。下記の日程で小樽支部の同窓会を行います。今回は、17期の大聖氏(歯科医)による、「歯の為になるお話」を聞けます。多数の参加を期待しております。

月日 1月20日(金曜日)  
時間 7:00pm 大聖氏によるプチ講演  
場所 大仁門 色内本店 住所:小樽市色内1-13-5 電話:23-8929

### 11期生新年会のお知らせ

矢野外記(11) 2005/12/07(Wed)  
11期生の皆様変わりなく、お過ごしのことと思います。毎年の年頭行事となりました新年会のお知らせをいたします。どうぞ、お繰り合わせの上、ご参加ください。  
日時 1月2日 午後6時00分  
場所 呉竹本店紫季海仙 五稜郭

### 5期(札幌)忘年会(M)

日時 2005年12月30日(金曜日)  
場所 京王プラザホテル札幌4F「蒼樹庵」壺の間  
連絡先 小林利起夫

**2期同期会「還暦」大同期会** 佐古一文(2) 2005/11/05(Sat)  
60歳を迎えた今、2回同期の有志がこの機会に同期会をやるということになりました。

日時 平成17年11月26日(土)  
追悼ミサ午後3時より ラサール高校内聖堂 にて  
会食 午後5時より あさり本店  
(宝来町10-11 TEL 0138-23-0421)



▲ 19期



▲ 東京同窓会



▲ 9期

# 06年大学別合格者数と年度別推移

卒業年度	2006 H18	2005 H17	2004 H16	2003 H15	2002 H14
<b>国立大学</b>					
北海道大学	26	30	26	20	15
東北大学	8	5	8	10	7
東京大学	3	2	2	6	5
東京工業大学				2	1
一橋大学	4		1	1	
名古屋大学	1	1	2		1
京都大学	2	3	1		2
大阪大学	1	2			
広島大学	3	1		1	
九州大学					1
北海道教育大学			4	4	2
室蘭工業大学		1	2	3	2
小樽商科大学	3	2	1	2	1
旭川医科大学	1	3	3	2	3
帯広畜産大学	2			1	
弘前大学	4	3	4	6	7
岩手大学	1	2	1	1	
秋田大学	2			1	1
山形大学		3	3	5	
福島大学			1	1	
茨城大学	1			1	2
筑波大学	1	3	4	2	1
宇都宮大学	2				
千葉大学	3	1	2	2	2
埼玉大学		2		1	1
東京外語大学	1	1	1		1
東京農工大学	1	1			2
東京海洋大学	1				
東京学芸大学			1	1	1
東京商船大学			1		
東京通信大学	2				
横浜国立大学	1	3	3	4	
静岡大学	1	1			
新潟大学				3	1
富山大学	1				
富山医薬大学					2
金沢大学			1		
信州大学	1	1			2
三重大学				1	1
滋賀医科大学					1
京都工芸繊維大学	1		1		
神戸大学	1				
和歌山大学	1				
鳥取大学			1		
島根大学	1				
島根医科大学		1		2	
山口大学	1		1	1	1
高知医科大学					
徳島大学		1			1
愛媛大学			1		
九州工業大学	1				
鹿児島大学			1		
琉球大学	1	2	1		1
小計	84	75	78	84	68
<b>大専校</b>					
防衛大学校	4	5		2	2
防衛医科大学校	2	1	1	1	1
航空保安大学校		1	1		
海上保安大学校		1			1
気象大学校					1
小計	6	8	2	3	5

卒業年度	2006 H18	2005 H17	2004 H16	2003 H15	2002 H14
<b>公立大学</b>					
札幌医科大学	1	3	6	2	7
釧路公立大学				2	1
ほくでて未来大学	2			1	1
青森県立保健大学					1
山形保健医療大学					1
高崎経済大学				1	
首都大学(旧東京都立大学)	1	3	1	2	
国際教育大学	1				
横浜市立大学	1			1	1
都留文科大学		1		1	
静岡県立大学				1	
京都市立芸術大学	1				
京都府立大学	2				
名古屋市立大学		1	1		
大阪府立大学	1				
大阪市立大学					
小計	10	8	8	11	12
<b>私立大学</b>					
慶応義塾大学	13	8	7	13	12
早稲田大学	12	18	16	20	15
上智大学	2	1	4	4	2
国際基督教大学	3	1	2	1	2
中央大学	14	15	19	12	14
東京理科大学	10	6	14	18	16
立教大学	6	6	11	4	5
同志社大学	6	1	4	2	7
立命館大学	6	2	3	8	5
岩手医科大学	2	2	1	4	
自治医科大学			1		
独協医科大学	1			1	
埼玉医科大学				1	
杏林大学	1			3	
北里大学	3	1	3	3	1
日本歯科大学				1	
東邦大学		2		4	1
聖マリアンナ医科大学		1		1	1
金沢医科大学			1		
順天堂大学				1	
酪農学園大学	3	1		2	1
北海道医療大学	14	2	8	11	10
北海学園大学	9	2	2	9	3
青山学院大学	4		5	4	4
学習院大学	1	2	1	2	1
芝浦工業大学	4	2	1	3	3
東京電機大学		1		1	4
東京薬科大学	2	2	2	3	4
日本大学	11	5	2	5	4
法政大学	9	2	3	7	5
明治大学	12	10	10	7	8
明治学院大学	2	1	3	1	2
関西大学		2	1	1	2
関西学院大学	1	1	1		
小計	155	97	125	157	132
<b>その他の私立大学(2006年のみ)</b>					
札幌学院大学	2				
国学院大学	2				
芝浦工業大学	4				
成蹊大学	2				
成城大学	1				
専修大学	1				
ネパダカフォルニア州立大学	1				
多摩美術大学	2				
東京工科大学				1	
東京農業大学				1	
東洋大学				1	
武蔵野美術大学				1	
武蔵工業大学				2	
京都産業大学				2	
金沢工業大学				2	

# クラブ活動成績

(主要なもの)

## <高体連・高野連 大会の記録>

<b>アーチェリー</b>	団体戦 6位
<b>剣道部</b>	春季大会 団体戦準優勝 地区大会 団体戦 3位
<b>硬式テニス部</b>	春季大会 団体戦 4位
<b>硬式野球部</b>	第45回春季北海道高等学校野球大会(ラ・サール 2-3 松前)
<b>サッカー部</b>	地区大会 準決勝ラ・サール 3-1 大谷 決勝ラ・サール 1-6 有斗 全道大会 1回戦 ラ・サール 2-0 岩見沢東 2回戦 ラ・サール 0-4 北海
<b>水泳部</b>	支部大会 男子団体優勝 100m 背泳ぎ 1位 山下 博彰 800m リレー 1位
<b>相撲部</b>	団体戦 3位 全道大会 体重別個人戦 中級 中村 嘉論 準優勝
<b>体操部</b>	春季大会 一部個人総合 1位 木村 人生 支部大会 一部団体 2位 木村、須藤、中住、和久井
<b>軟式野球部</b>	北海道高等学校軟式野球選手権大会 1回戦 ラ・サール 12-3 函館工業 決勝 勝 ラ・サール 1-4 函大有斗
<b>バスケット部</b>	春季大会 1回戦 ラ・サール 104-46 熊石 2回戦 ラ・サール 61-86 函館東
<b>陸上部</b>	道南地方春季陸上競技大会 高1男 100m 渡辺 第1位 道南陸上競技選手権大会 100m 渡辺 第1位 高1男 200m 渡辺 第1位
<b>ワンダー・フォーゲル部</b>	地区大会優勝

## <高文連 大会の記録>

<b>新聞局</b>	道南支部新聞コンクール A部門(活版新聞) 総合賞
<b>放送部</b>	第53回NHK杯全国放送 コンテスト道南地区大会 アナウンス部門 最優秀 伊達和弥(3C) ラジオドキュメント部門 優秀賞
<b>写真部</b>	全道大会 アナウンス部門 優秀 伊達和弥(3C) 高文連第6回全道写真コンクール 入選(2作品) 照井晋作

## 住所変更通知

毎年、同窓会報が多数「転居先不明」で返送されてきます。この会報がお手元に届いた場合でも、「転居先」に転送された場合は、次年度以降には「転居先不明」になる場合がありますので、お手数ですが、下記の「住所変更通知」を事務局に FAX していただくか、ホームページからご連絡いただくようお願いいたします。※本データは函館ラ・サール同窓会事務局が責任をもって保管し、同窓会名簿の制作及び同窓会・同期会の連絡以外の用途には一切使用しません。

## 切り取り線

FAX 0138-54-0365 (函館ラ・サール学園事務局)

★は必須事項

★氏名	ふりがな (姓) (名) (旧姓) ※変わっている場合
卒業年次	西暦 年 3月 回生
★現住所	〒□□□-□□□□ (都・道・府・県) (市・区・町・村)
電話	TEL ( ) - FAX ( ) - 携帯電話

勤務先(学校)	名称 TEL ( ) -
メールアドレス	(複数の場合はよくお使いになるアドレスを2つ) @ @
同窓会サイト加入 通信欄	済・未 (いずれかに○) (連絡先を自宅以外とする場合、転居予定などがございましたらその旨をご記入ください)